

元八王子見て歩き ④

(神戸から大幡へ)

⑥ 旧案下道は恩方丘陵東端の張りだし（障害）のため、紆余曲折する道となり、里人、旅人、馬の通行にとって大変な苦勞であった。そこで、明治に入って日枝神社の南側に、小田野と神戸を結ぶ道を開削した。今、明治の道と呼んで通行できる。その後大正12年になって神戸の切り通しが開通した。

⑪ 馬頭観音地蔵。
1686年造。

③ 北浅川の堤防の桜並木。以前この辺りの決壊により四谷方面まで大出水あり。



⑩ 榎の古木と庚申塔、地蔵尊。

⑨ お手々つないでの像



⑨ 宝生寺。夕焼けの鐘。「お手々つないで」と称した兄妹の像あり。



④ あんげ道渡河地点

⑧ 水天宮。このあたり案下道渡河地点。

⑥ 明治の道



⑥ 神戸の切り通し



④ 恩方、川口方面に向かう重要渡河地点。3つの川の合流のため水量が増し人馬共々渡河するのに大変難儀した。仮橋をかけるも幾度となく流失。今年の5月にも大雨で流失した。

⑦ 神戸山無量寺、明治初年廃寺。明治の初期、西明治小学校開設。



③ 桜並木

② 神戸会館と日枝神社。桜の古木。

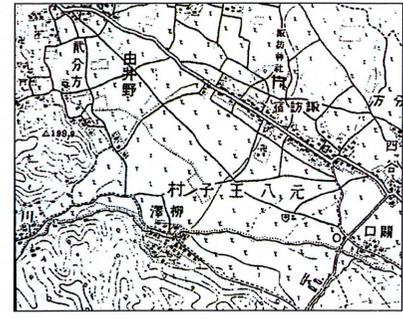


⑤ 法泉寺と金比羅宮



⑦ 無量院の跡

元八王子見て歩き⑤
(三分方原)



④野堀川と緑道

⑩ 大楽寺と三分方を分割する直線道路。

④ 野堀川は以前は高土手といわれた。人工的に造られた土手であり、上部に堀りが造られていた。牧場の柵でもあり馬の水飲み場でもあった。近年改修工事が行われ、現在のコンクリートの水路となり、平行して緑道と呼ぶ散歩道もつくられた。

⑨ 由井野。由比の牧の中心地。南の丘の上に別当由比宗弘の屋敷があった。



⑧水田風景

⑧ 地下水をポンプで汲み上げ水田にしていく。この地区の唯一の水田風景。



① 三分方小の校章はカタクリの花。南側の丘陵の北斜面に以前はかたり咲いていたであろう。今も山道を歩くとカタクリに出会うことがある。

② 三分方原といえば広大な桑畑。それは戦前のこと。今、わずかに残るのみ。養蚕農家は2軒とか。



②桑畑

⑦ 佐藤保武墓。江戸期の文化年間一般子弟に文学を教えた人物。熱意ある教えに感謝し後世の人々によりこの碑が建つ。明治九年のこと。



⑦佐藤保武の墓

⑥ 由井野のおみたらし。イボによくきく湧水が何百年も昔から湧れることもなく湧き出している。夏でも冷たく飲んでもおいしい。今は訪れる人も少ない。市川宅の庭先にある。



⑥イボ取り水

③ 由比の牧跡碑、庚申塔、桜木天王宮、桜の古木が同じ場所にある。由比の牧とは、1300年ほど前に設置された。牛馬を育成し皇室に馬を供給するための牧場のことである。この碑の北西部がそれにあたる。庚申塔、桜木天王宮は220年ほど前の江戸時代に建てられた。天明の大飢饉の時である。毎年8月1日に「御湯花神事」の例祭がある。



③由比牧碑と桜木天王宮

③お湯花式



⑪かまくら道の地蔵尊

